

**帝塚山大学大学院心理科学研究科**  
**学位論文審査基準**

2020年4月15日 研究科委員会決定

2020年4月15日 施行

2021年3月17日 研究科委員会修正

2022年3月16日 研究科委員会修正

本学学位規程が求める申請要件を満たし、本研究科および専攻が定める手続きの下に提出された学位請求論文は、以下に記す基準に従って審査を行う。

**1. 博士前期課程：修士論文**

**1-1 修士論文提出までの手順**

修士の学位請求をしようとする者は、修士論文提出までに、特別演習等において指導を受け、それをもとに、指定期日までに題目を申請し、修士論文を提出しなければならない。

**1-2 論文審査の方針（審査体制等）**

本研究科は、修士の学位請求に対してその受理の可否を決定し、審査に当たる主査1名、副査1名を定める。学外の審査委員を副査とすることができる。学位請求者は、以下の論文評価の各項目について、主査と副査による査読、および口頭試問等を受ける。さらに、必要に応じて、研究科の定める公聴会において研究成果の発表を行うものとする。

**1-3 修士論文評価の基準**

(1) 設定された問題提起等の意義

論文において設定された問題提起等が学問的に意義深いか。

(2) 先行研究のレビューの適切性

先行研究を適切に参照し、研究においてレビューされる文献・資料が学術的見地から適切であるか。

(3) 研究内容における論理的合理性

研究内容が論理的かつ合理的な構成となっているか。

(4) データ収集の適切性

データ（情報）収集において、研究テーマとの関連で適切な形でなされているか。データ（情報）の整理・処理等は適切に行われているか。

(5) 分析結果について

データの分析が、学術的な観点から客観的かつ論理的に行われているか。問題提起

(仮説)等に沿った検証が行われているか。

(6) 論文の論理的構成

論文自体が論理的で首尾一貫した構成となっているか。

(7) 論文体裁の適切性

表現や用語において、論文として相応しいものであるか。記述が明解であるか。表記、図表、引用・参考文献、注釈等の作成規則において、学術論文としての体裁が整っているか。

(8) 学術的貢献

論文の成果が学問領域における研究業績・知見に貢献、またはその基礎となりうるようなものを提供しているか。

## 2. 博士後期課程：博士論文

### 2-1 博士論文提出までの手順

博士の学位請求をしようとする者は、博士論文提出までに、特殊研究等において指導を受け、指定期日までに題目を申請し、博士論文を提出しなければならない。

博士論文を提出するまでに、請求者の論文が、請求の過去5年間で査読付学術論文誌およびそれに準ずるものに3編以上が掲載されている（または掲載が決定している）ものとし、各論文はすべて主著者でなければならない。

論文の提出は、後期修了の審査の場合は、11月中に審査論文3部の提出を求める。また併せて要旨も3部提出しなければならない。前期修了の場合、当該年度の5月中に審査論文3部の提出を求める。また併せて要旨も3部提出しなければならない。

### 2-2 論文審査の方針（審査体制等）

本研究科は、博士の学位請求に対しその受理の可否を決定し、審査に当たる主査1名、副査2名を定める。副査には、原則として学外の審査委員を含めるものとする。学位請求者は、以下の論文評価の各項目について、主査と副査による査読、および口頭試問等を受ける。さらに、必要に応じて、研究科の定める公聴会において研究成果の発表を行うものとする。

### 2-3 博士論文評価の基準

(1) 設定された問題提起等の意義

論文において設定された問題提起等が学問的に意義深いか。

(2) 先行研究のレビューの適切性

国内外の先行研究を十分に参照し、研究においてレビューされる文献・資料等が学術的見地から適切であるか。

(3) 研究内容における論理的合理性

研究内容が論理的かつ合理的な構成となっているか。

- (4) データ収集の適切性  
データ（情報）収集において、研究テーマとの関連で適切な形でなされているか。データ（情報）の整理・処理等は適切に行われているか。
- (5) 分析結果について  
データの分析が、学術的な観点から客観的かつ論理的に行われているか。問題提起（仮説）等に沿った検証が行われているか。
- (6) 論文の論理的構成  
論文自体が論理的で首尾一貫した構成となっているか。
- (7) 論文体裁の適切性  
表現や用語において、論文として相応しいものであるか。記述が明解であるか。表記、図表、引用・参考文献、注釈等の作成規則において、学術論文としての精密さを備えているか。
- (8) 学術的貢献  
論文の成果が学問領域における研究業績・知見に貢献し、理論および実践の進展に寄与する、またはその基礎となりうるようなものを提供しているか。
- (9) 研究者としての自立  
自立した研究者としての資質と能力を証明するものであるか。

以上